

## 焼却施設における余熱利用施設の整備及び維持管理について

新焼却施設は、循環型社会に寄与する施設であるとともに、地元還元施設、さらには日頃から住民が訪れやすい施設となることを目指している。

新焼却施設の建設候補地周辺には、新焼却施設からの蒸気エネルギー等を利用できる余熱利用施設はなく、今後も新たな余熱利用施設を整備する予定はない。そのため、新焼却施設からの余熱を効率的に利用するためにも、新焼却施設の工場棟内に余熱利用施設を整備することをプラントメーカーの技術提案書を基に検討を行った。なお、プラントメーカーへの技術調査では、工場棟内に温浴施設を整備し、維持管理することが可能かどうか調査を行った。

技術調査で回答のあった5社のうち、5社とも工場棟内に温浴施設を整備し、維持管理することは可能という回答であった。また、5社のうち2社は、配置案についての回答があり、プラントホームの上階に整備する案と別棟の管理棟内に整備する案があった。

一方で、工場棟内に温浴施設を整備・維持管理することに対し、いくつか要望等も挙げられた。

温浴施設等の余熱利用施設を工場棟内に整備する計画を具現化するにあたり、今後、検討すべき事項を以下に示す。

### 【温浴施設等の余熱利用施設を工場棟内に整備するにあたっての検討事項】

- (1) 余熱利用施設の種類、規模、運営方法（配置人員、営業時間など）等の基本事項について
- (2) 余熱利用施設の利用者と運転員の動線について
- (3) 発注スキームについて
- (4) 発電量を含む、ランニングコストについて

※新ごみ処理施設（焼却施設）基本計画 P 5 9 より

### ■委員の意見と検討項目

- ・住民は、発電に興味あまり無いようで、温浴施設、直売所、休憩所などを希望する意見が多く出たため、積極的に温浴施設を造るほうが良いのでは。
- ・敷地の制限があれば、粗大・リサイクル施設用地に造ることはできないのか。
- ・温浴施設の維持管理をどうするのか、どれくらいの規模になるのかは発注仕様書に書くが、建物の中になると実現できない場合もあり、外出しになる場合もあるのでは。